

AMPLIFIER CONTROL DEVICE

ACD1

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源は本体に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。故障、発熱、火災などの原因になります。ただし、日本国外で使用する場合は、付属の電源コードを使用できないことがあります。お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。



必ず実行

電源プラグは保護設置されている適切なコンセントに接続する。確実に接地しないと、感電の原因になります。



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

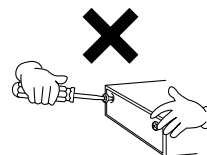
分解禁止



禁止

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



水に注意



禁止

この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

電源コードやプラグがいたんだ場合、または使用中に異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



禁止

不安定な場所に置かない。

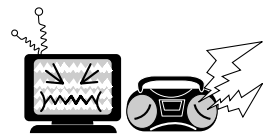
この機器が転倒して故障したり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。

この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じることがあります。



設置



必ず実行

この機器を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々けがをしたりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

この機器をEIA標準のラックにマウントする場合は、9ページの「ラックマウント時の注意」をよく読んでから設置する。放熱が不十分だと機器内部に熱がこもり、火災や故障、誤動作の原因になることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。

この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

使用時の注意



必ず実行

機器の周囲温度が極端に変化する(機器の移動時や急激な冷暖房下など)と、結露することがあります。そのまま使用すると故障の原因になることがありますので、電源を入らずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。



禁止

この機器のパネルのすき間に手や指を入れない。

お客様けがをするおそれがあります。



禁止

この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

この機器の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。この機器が破損したり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。

バックアップバッテリー



必ず実行

この機器は内部メモリー用にバックアップバッテリーを内蔵しており、電源を切った状態でも内部メモリーのデータは保持されます。ただし、バックアップバッテリーが消耗すると内部メモリーのデータ*が消えてしまいますので、消耗する前にバックアップバッテリーを交換する必要があります。バックアップバッテリーが消耗してくると、機器の起動時または使用中にディスプレイに「Low Battery」、「Critical Battery」または「No Battery」が表示されます。その場合は、電源を切らずに、すぐにデータをコンピューターなどの外部機器に保存し、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにバックアップバッテリーの交換をご依頼ください。バックアップバッテリーの寿命の目安は約5年ですが、使用環境などにより変動する場合があります。

* バックアップバッテリーによって保持されている内部メモリーのデータの種類は以下のとおりです。

- ・ カレントシーンの内容、シーン番号
- ・ 機器固有パラメーター(SLOT、HA、UTILITY、Master Mute/Level など)
- ・ イベントログ

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

スイッチ、接続端子などの消耗部品は、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

ご注意

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

- ・ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

PC9500N、PC4800N、PC3300Nパワーアンプをお使いのお客様へ

PC9500N、PC4800N、PC3300NのパワーアンプをACD1と接続してシステムを構成する場合、お使いのパワーアンプによってはAmp Editorでメーターが正しく表示されない場合があります。お使いのパワーアンプがこの問題に対応済みかどうかをご確認いただき、未対応の場合は、お買い上げの販売店または本書巻末に記載されているヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

[対応確認方法]

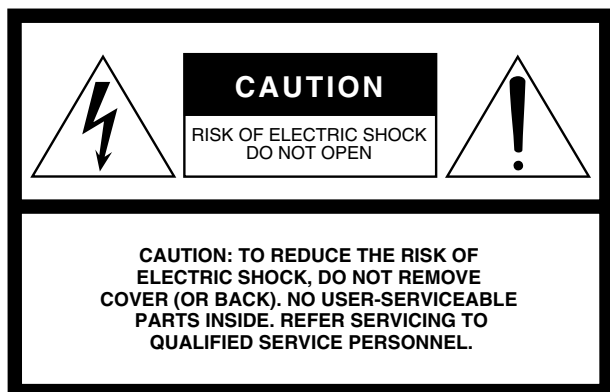
- ・ パワーアンプ本体のリアパネルに貼られている製番ラベルの先頭アルファベット2文字が、IL、IM、IN、IO、IP、IX、IY、IZ、JHで、すぐ近くに緑色の丸いシールが貼っていない場合は未対応です。

T5n、T4n、T3nパワーアンプをお使いのお客様へ

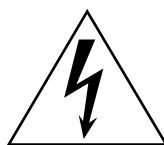
T5n、T4n、T3nパワーアンプをACD1でモニター/コントロールする場合、最大入力レベルが+24dBuの信号を入力するときは、クリップしないようT5n、T4n、T3nのGAINスイッチを[26dB]に設定して使用してください。ACD1と接続されるとパワーアンプ内部の電子ボリュームが有効となり、GAINスイッチが[32dB]の場合の最大入力レベルは+18dBuとなります。

付属品

- ・ 電源ケーブル
- ・ ゴム脚×4
- ・ ユーロブロックプラグ(16ピン)
- ・ 取扱説明書(本書) *本書に保証書が記載されています。



Explanation of Graphical Symbols



The lightning flash with arrowhead symbol within an equilateral triangle is intended to alert the user to the presence of uninsulated “dangerous voltage” within the product’s enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.



The exclamation point within an equilateral triangle is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the product.

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

- 1 Read these instructions.
- 2 Keep these instructions.
- 3 Heed all warnings.
- 4 Follow all instructions.
- 5 Do not use this apparatus near water.
- 6 Clean only with dry cloth.
- 7 Do not block any ventilation openings. Install in accordance with the manufacturer’s instructions.
- 8 Do not install near any heat sources such as radiators, heat registers, stoves, or other apparatus (including amplifiers) that produce heat.
- 9 Do not defeat the safety purpose of the polarized or grounding-type plug. A polarized plug has two blades with one wider than the other. A grounding type plug has two blades and a third grounding prong. The wide blade or the third prong are provided for your safety. If the provided plug does not fit into your outlet, consult an electrician for replacement of the obsolete outlet.
- 10 Protect the power cord from being walked on or pinched particularly at plugs, convenience receptacles, and the point where they exit from the apparatus.

- 11 Only use attachments/accessories specified by the manufacturer.
- 12 Use only with the cart, stand, tripod, bracket, or table specified by the manufacturer, or sold with the apparatus. When a cart is used, use caution when moving the cart/ apparatus combination to avoid injury from tip-over.
- 13 Unplug this apparatus during lightning storms or when unused for long periods of time.
- 14 Refer all servicing to qualified service personnel. Servicing is required when the apparatus has been damaged in any way, such as power-supply cord or plug is damaged, liquid has been spilled or objects have fallen into the apparatus, the apparatus has been exposed to rain or moisture, does not operate normally, or has been dropped.



WARNING

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK, DO NOT EXPOSE THIS APPARATUS TO RAIN OR MOISTURE.

Water warning

- Do not expose the device to rain, use it near water or in damp or wet conditions, or place containers on it containing liquids which might spill into any openings. If any liquid such as water seeps into the device, turn off the power immediately and unplug the power cord from the AC outlet. Then have the device inspected by qualified Yamaha service personnel.

Backup battery caution

- This device has a built-in backup battery. When you unplug the power cord from the AC outlet, the internal current scene data is retained. However, if the backup battery fully discharges, this data will be lost. When the backup battery is running low, the LCD indicates “Low Battery”, “Critical Battery” or “No Battery”. In this case, immediately save the data to an external media such as a computer, then have qualified Yamaha service personnel replace the backup battery.

目次

はじめに	7
関連マニュアルとソフトウェア	7
ACD1の特長	7
用語	8
対応アンブ.....	8
ファームウェアのアップデートについて.....	8
ラックマウント時の注意.....	9
操作の前に.....	10
接続例	11
PC-N、Tnシリーズとの接続について	12
XP、XM、XHシリーズとの接続について	13
他社製コントローラーとの接続について.....	13
パネル操作でできること	14
困ったときは(トラブルシューティング).....	15
内蔵メモリーの初期化.....	15
保証とアフターサービス	16
保証書.....	17

はじめに

このたびはヤマハアンプコントロールデバイス ACD1 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。ACD1 の優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。また、ご一読いただいたあとも、不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

関連マニュアルとソフトウェア

本書では導入時の接続を中心に説明しています。ACD1 や Amp Editor の詳細マニュアルや、Amp Editor は以下のウェブサイトのダウンロードページからダウンロードしてください。

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/downloads/>

● 関連マニュアル一覧

ACD1 リファレンスマニュアル	ACD1 のパネル操作などの詳細な説明をしています
Amp Editor インストールガイド	Amp Editor のインストール手順とアンインストール手順を説明しています
Amp Editor 取扱説明書	Amp Editor と ACD1 のセットアップ方法や、Amp Editor の使い方について説明しています

【NOTE】 ・ダウンロードしたマニュアルをご覧になるには、コンピューターに Adobe Reader がインストールされている必要があります。Adobe Reader をお持ちでない方は、下記 URL から Adobe 社のページを開き、Adobe Reader (無償) をダウンロードしてください。

<http://www.adobe.co.jp/>

ACD1 の特長

ACD1 は、次のような特長を備えたアンプコントロールデバイスです。

■ Amp Editor からアンプをモニター / コントロール

アプリケーションソフトウェア Amp Editor をインストールしたコンピューターと LAN 接続することによって、ACD1 や ACD1 に接続されたアンプをコンピューターからモニター / コントロールできます。また、ACD1 本体からも、接続されているアンプの出力信号をモニターしたり、電源の On/Standby をコントロールしたりできます。

■ 最大40台のアンプをモニター / コントロール

ACD1 は1台に最大40台のアンプを接続してモニター / コントロールできます (XP/XM/XH シリーズは最大8台、PC-N/Tn シリーズは最大32台接続できます)。

また、一つのネットワークに ACD1 を複数台接続すると、Amp Editor でより多くのアンプをモニター / コントロールできます。

用語

ここでは、ACD1 に特有の用語について説明します。

■ シーン

電源 On/Standby やミュートなどアンプごとの各種設定を「シーン」と呼びます。シーンを呼び出す(リコール)ことで、保存した設定をすぐにアンプに反映させることができます。

■ シーンリンク

エリア内の複数のアンプのシーンを同時にリコールするための設定を「シーンリンク」と呼びます。シーンリンクを呼び出す(リコール)ことで、同時に複数のアンプのシーンをリコールすることができます。シーンリンクの作成とリコールは Amp Editor で行ないます。

対応アンプ

2009年9月現在、ACD1 との接続に対応しているアンプは以下のとおりです。

- XP シリーズ : XP7000、XP5000、XP3500、XP2500、XP1000
- XM シリーズ : XM4180、XM4080
- XH シリーズ : XH200
- PC-N シリーズ : PC9501N、PC6501N、PC4801N、PC3301N、PC2001N、PC9500N、PC4800N、PC3300N
- Tn シリーズ : T5n、T4n、T3n

* 最新の情報については以下のウェブサイトをご参照ください。

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/>

ファームウェアのアップデートについて

ACD1 本体のファームウェアのバージョンは、ACD1 のパネルまたは Amp Editor でご確認ください。アップデートは Amp Editor で行ないます。アップデート方法については、「Amp Editor 取扱説明書」をご参照ください。

また最新のファームウェアは、以下のウェブサイトのダウンロードページからダウンロードしてご利用いただけます。

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/downloads/>

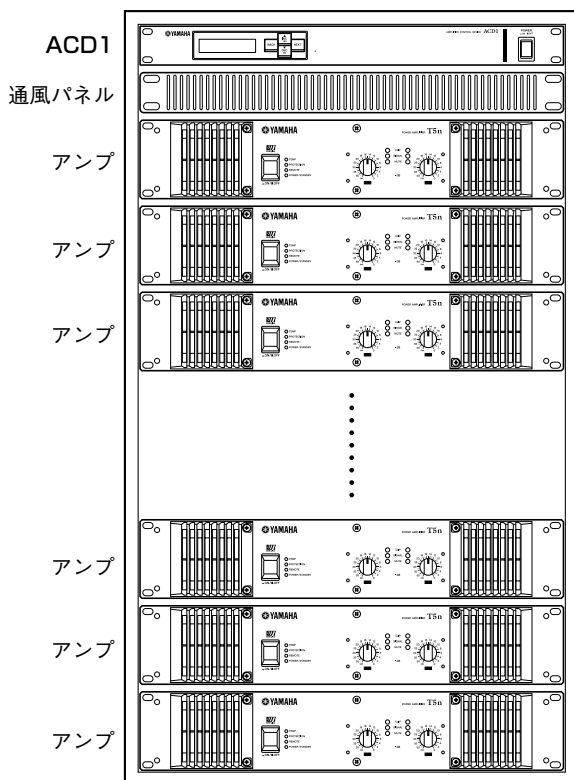
ラックマウント時の注意

この機器が動作保障する室温は0～40℃です。この機器を複数または他の機器と一緒にEIA標準のラックにマウントする場合、各機器からの熱でラック内の温度が上昇し、十分な性能を発揮できないことがあります。この機器に熱がこもらないように、必ず以下の条件でラックにマウントしてください。

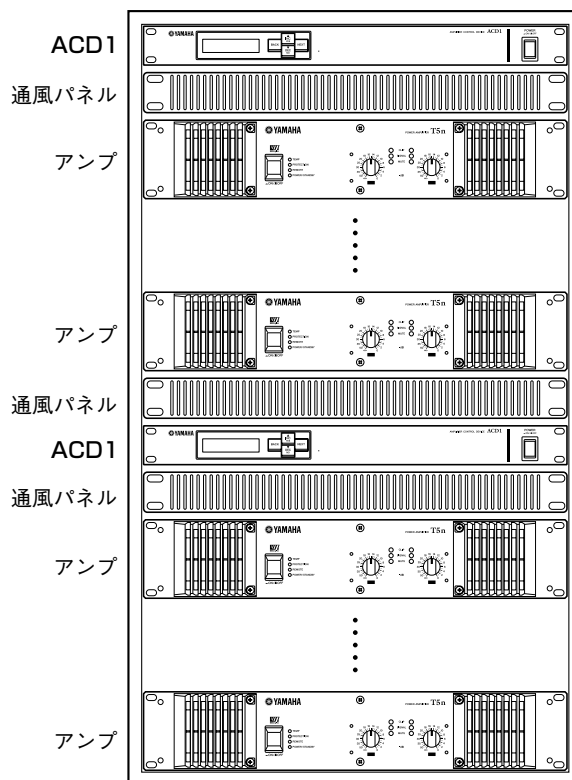
- ・ パワーアンプなどの発熱しやすい機器と一緒にマウントする場合は、他の機器 (ACD1を含む) との間を1U以上空けてください。また、この空けたスペースは通風パネルを取り付けたり、開放したりして、十分な通気を確保してください。
- ・ ラックの背面を開放して、ラックを壁や天井から10cm以上離し、十分な通気を確保してください。ファンキットを取り付けた場合は、ラックの背面を閉じた方が放熱効果が大きくなることもあります。詳しくはラックおよびファンキットの取扱説明書をご参照ください。

■ ACD1 と対応アンプを組み合わせてマウントする場合

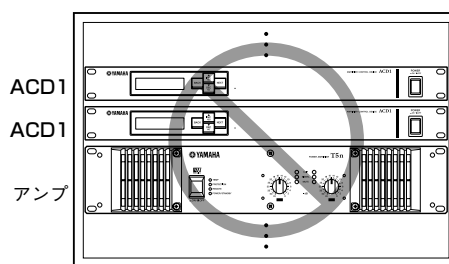
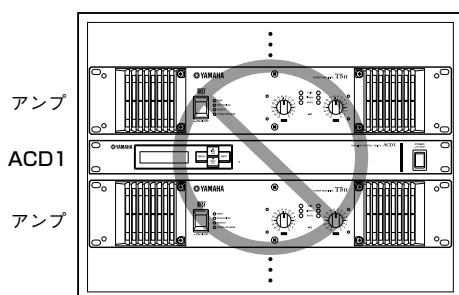
1) ACD1をラックに1台のみマウントする場合



2) ACD1をラックに複数台マウントする場合



⚠ 注意 ・ ACD1 の上下に ACD1 やアンプを重ねてマウントしないでください。



操作の前に

電源コードの接続

-  **注意** ・電源を接続する前に必ずすべての機器の電源をオフにしてください。

付属の電源コードのソケット側をACD1本体リアパネルの[AC IN]端子に接続してから、プラグ側をコンセントに接続します。必ず100Vのコンセントをご使用ください。

電源オン/オフ

-  **注意** ・電源を入れるときにスピーカーから大きなノイズが出ないよう、音源、ミキサー (M7CL、PM5Dなど)、ACD1、アンプの順に電源を入れてください。電源を切るときはこの逆の順序で行なってください。
- ・ACD1より先にアンプの電源を入れると、ACD1がアンプのミュートやレベルなどの設定をする前にアンプが起動してしまい、予期せぬ大音量が出る可能性があります。
 - ・XP/XM/XHシリーズのアンプより先にACD1の電源を切ると、アンプの設定がデフォルトに戻ります。

1. [POWER] スイッチを押してACD1の電源をオンにします。

2. [POWER] スイッチをもう1度押すと電源がオフになります。

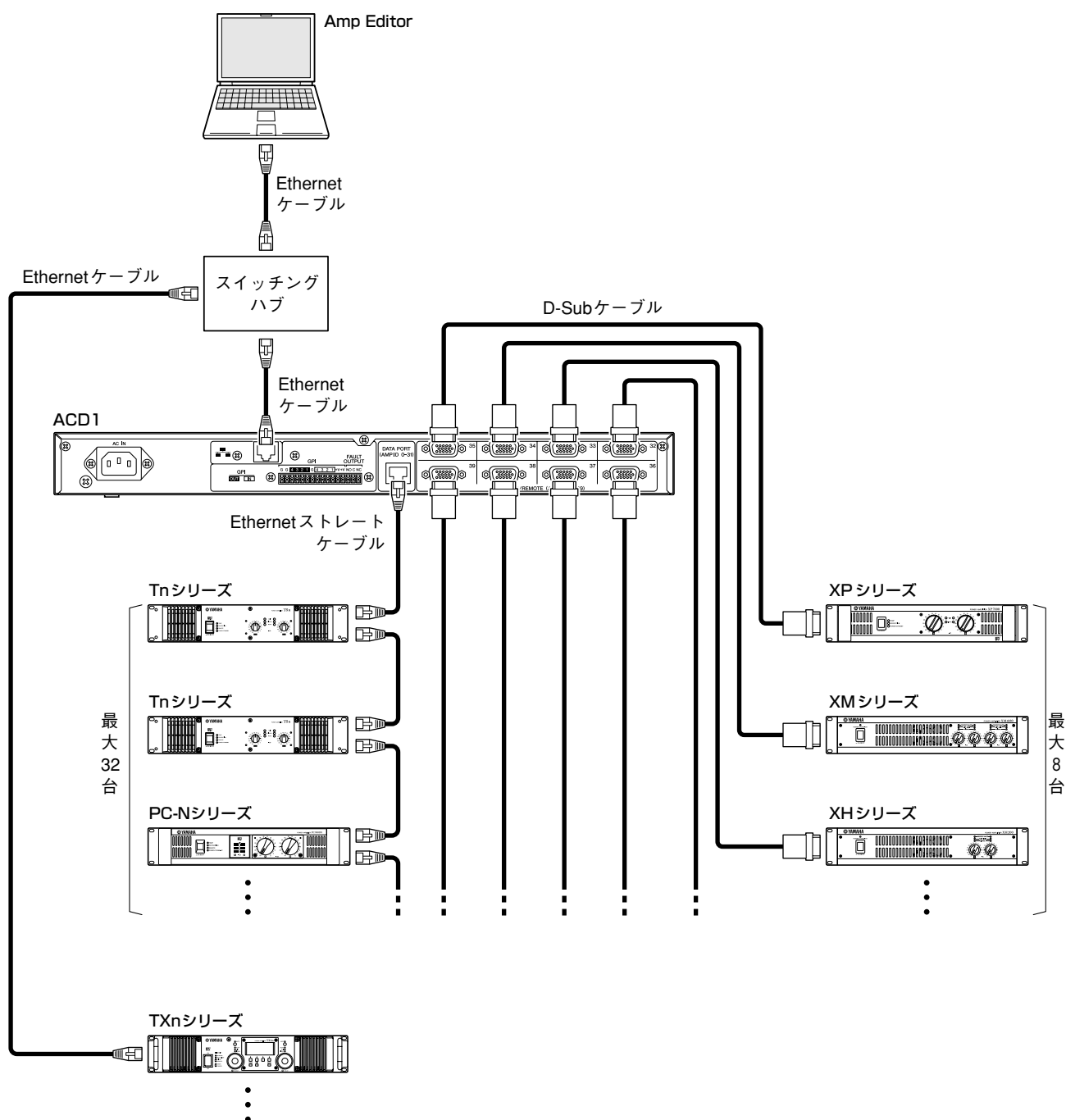
- NOTE** ・電源を切ったときの設定は保存されます。電源を再度入れたときには、その設定値で起動します。また、Last Mem. Resume 設定で、電源を切ったときのシーンナンバーのシーンをリコールした状態で起動するようにも変更できます。

-  **注意** ・本体LCDに「Do not turn off!」と表示されている場合は電源を切らないでください。故障の原因になります。

-  **注意** ・電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続例

アンプコントロールシステムを構築するためには、ACD1にアンプやコンピューターを以下のように接続します。



NOTE コンピューターとACD1の接続について

- ・ 100Base-TX/10Base-T対応スイッチングハブを使用してください。
- ・ コンピューターとACD1を直接接続する場合は、スイッチングハブは不要です。
- ・ コンピューターまたはスイッチングハブとACD1間のEthernetケーブルの長さは、最長100メートルです。ただし、使用するコンピューターまたはスイッチングハブやケーブルの品質により、この長さを保証できない場合もあります。
- ・ Ethernetケーブルは、CAT5以上のUTPケーブルまたはSTPケーブルをお使いください。
- ・ ACD1はAuto MDI/MDI-Xに対応しているため、ストレート/クロスケーブルを自動的に判別して切り替えを行ない、適切な方法で接続できます。そのためストレートケーブル、クロスケーブルどちらも使用できます。

PC-N、Tnシリーズとの接続について

ACD1 は最大32 台のPC-N、Tnシリーズを[DATA PORT]端子経由でEthernetケーブルを用いてダイジーチェーン接続できます。

接続手順

1. 接続するアンプのリアパネルにある[AMP ID]スイッチで、AMP IDとターミネーション(終端)を設定します。

同じACD1に接続するアンプは、1 台ずつ異なるAMP IDに設定してください。スイッチをONに設定した数値の合計がAMP IDになります。

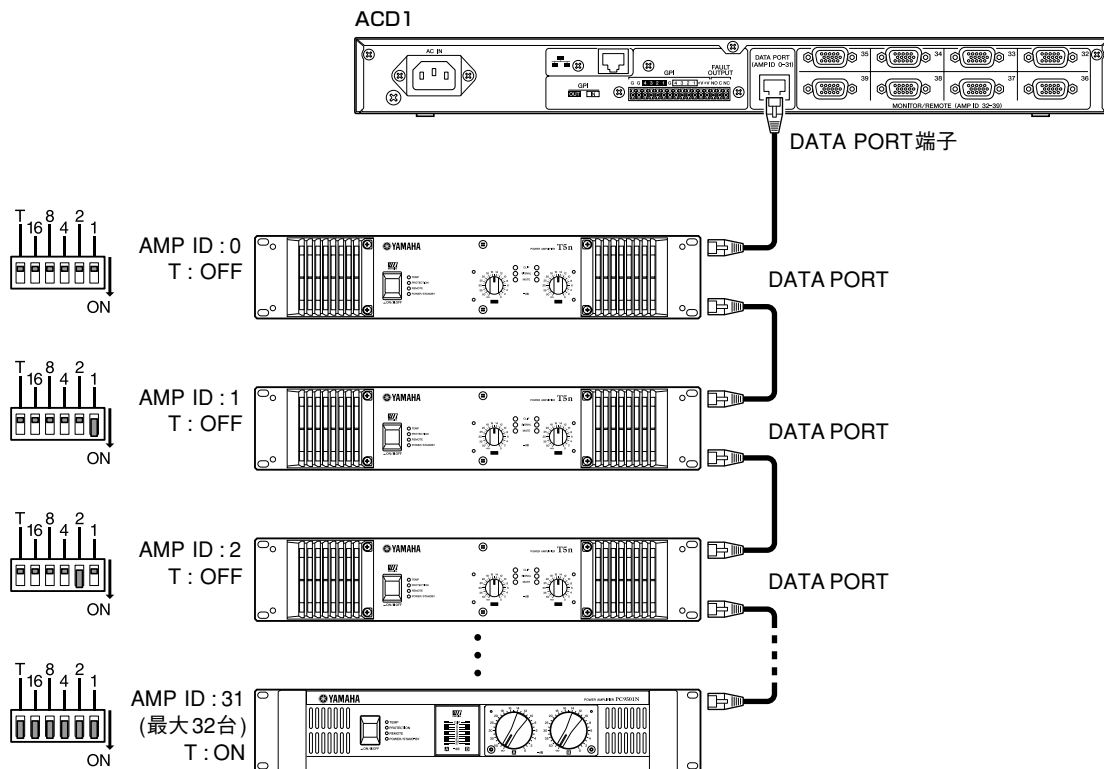
また、ダイジーチェーン接続した最後のアンプのT(ターミネーション)スイッチをONにしてください。



このイラスト例ではAMP IDが28(16+8+4)、ターミネーションONとなります。

2. ACD1 の[DATA PORT] 端子と各アンプの[DATA PORT] 端子をEthernetケーブルで図のようにダイジーチェーン接続します。

AMP ID順に接続する必要はありませんが、順番に接続するとリアパネルを見なくてもIDがわかりやすくなります。



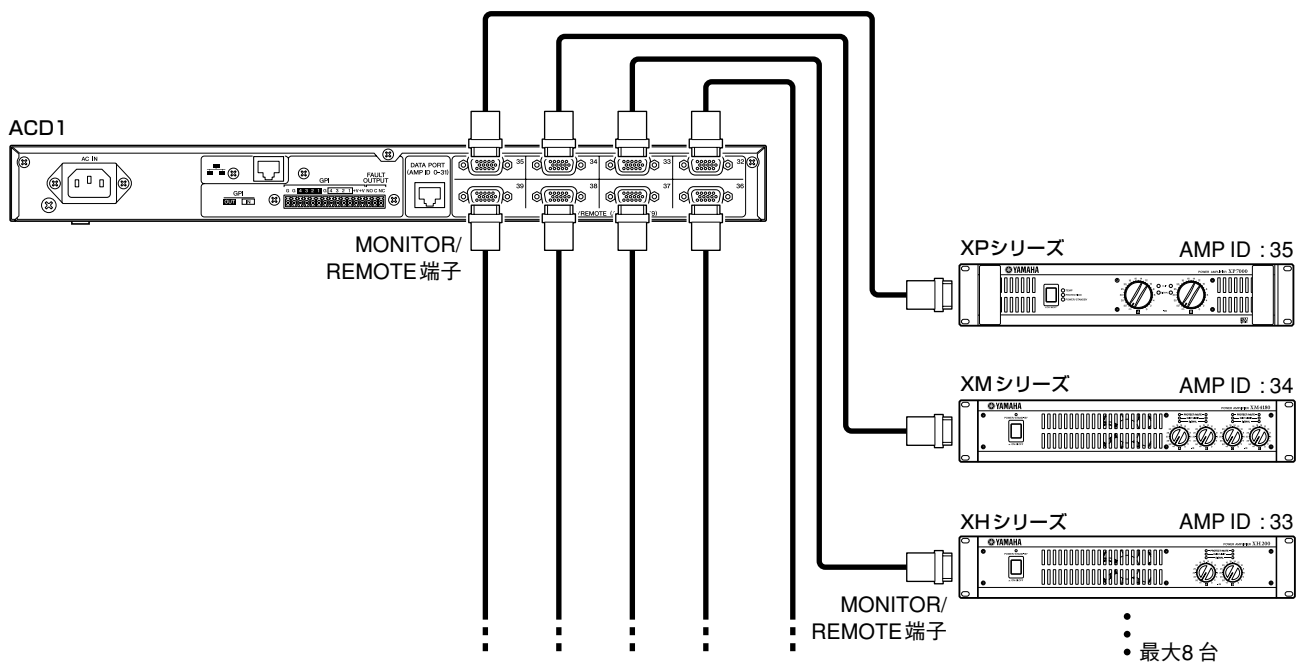
- NOTE**
- ・使用できるEthernetケーブルの長さは、終端までの合計で、最長500mです。
 - ・Ethernetケーブルは、8ピンすべてが接続されているCAT5以上のUTPストレートケーブルまたはSTPストレートケーブルをお使いください。
 - ・PC-NシリーズとTnシリーズが混在してACD1に接続されても問題ありません。
 - ・アンプにある2つの[DATA PORT]端子はどちらに接続しても問題ありません。

XP、XM、XHシリーズとの接続について

ACD1 は最大8 台のXP、XM、XHシリーズを [MONITOR/REMOTE] 端子で接続できます。

接続手順

1. ACD1 の [MONITOR/REMOTE] 端子とXP、XM、XHシリーズの [MONITOR/REMOTE] 端子を下図のようにD-Sub15ピンケーブル (市販されているコンピューターディスプレイ用VGAケーブルなど) で接続します。



- NOTE**
- ・ D-Subケーブルは、15ピンすべてが接続されているストレートケーブルをお使いください。
 - ・ 使用できるD-Subケーブルの長さは、最長50mです。

他社製コントローラーとの接続について

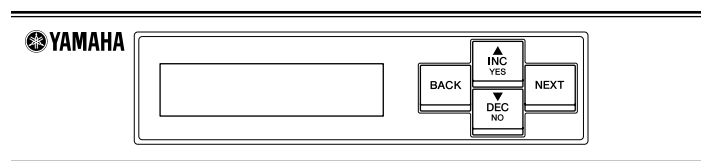
AMXやCrestronなどのEthernet対応コントローラーを接続して、ACD1 とACD1 に接続されたアンプをリモートコントロールできます。

Ethernet対応リモートコントローラーを接続する場合は、ACD1 本体操作の [6.Network Setup] → [IP Ctrl Port #] で ACD1 の IP Port No. を設定するか、Amp Editor の [Device Setup] → [IP Control Port No...] で開く 「IP Control Port No.」 ダイアログボックスで ACD1 の IP Port No. を設定する必要があります。リモートコントロールのための通信プロトコルの詳細については、ウェブサイトにある 「TXn/ACD1 リモートコントロールプロトコル仕様書」 をご参照ください。

<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/>

パネル操作でできること

ACD1 のフロントパネルで可能な操作は以下のとおりです。



- NOTE**
- ・詳細についてはACD1リファレンスマニュアルをご参照ください。
 - ・本体LCDには工場出荷時に透明の保護フィルムが貼られていますので、はがしてからご使用ください。

カテゴリー	サブカテゴリー	できること
1. Scene	Recall	指定したアンプのシーンを呼び出します。
	Store	指定したアンプのシーンを保存します。
2. Amp Control	Standby/On	指定したアンプの電源をOnまたはStandbyに切り替えます。
	Mute	指定したアンプのチャンネルをミュートしたりミュートを解除したりします。
	Attenuation	指定したアンプのチャンネルのアッテネーター値を変更します。(PC-N、Tnシリーズのみ)
3. Output Monitor		指定したアンプの出力レベルを表示します。
4. Device Setup	Device ID	ACD1 のDevice ID を設定します。
	Device Label	Amp Editorで設定したACD1 の名称を表示します。
	Identify	Amp Editor上の該当するACD1 の「Identify」アイコンを点滅させます。
5. Utility	Battery	ACD1 内蔵のバックアップバッテリーの状態を表示します。
	Firmware Ver.	ACD1 のファームウェアのバージョンを表示します。
	LCD Backlight	ACD1 のLCDバックライトを常時点灯する (ON)か、操作時のみ点灯する (Auto OFF) か選択します。
	Panel Operation	ACD1 のパネル操作の制限を設定します。
	Scene Recall	ACD1 のパネル操作でシーンのリコールを許可する (Enable)か、許可しない (Disable) か選択します。
	EMG Scene Setup	外部コントローラーからEMG(Emergency)信号を受信したときにリコールするシーン番号を設定します。OFFに設定すると、EMG信号を受信してもシーンをリコールしません。
	Last Mem. Resume	ACD1 の電源を入れたときに、前回電源を切ったときの設定で起動する (ON)か、前回電源を切ったときのアンプのシーンナンバーをリコールして起動する (OFF) か選択します。
	Clock	ACD1 に内蔵されている時計の時刻と日付を設定します。
	GPI Calibration	GPI IN端子の入力電圧のキャリブレーションを実行します。
6. Network Setup	IP Address Mode	ACD1 のIPアドレスをAmp Editorで自動設定する (DHCP) か、手動設定する (Manual) か選択します。
	IP Address	ACD1 のIPアドレスを設定します。
	MAC Address	ACD1 のMACアドレスを表示します。
	IP Ctrl Port #	ACD1 をAMX/Crestronなどの外部コントローラーでEthernet経由でコントロールする際に使用するポート番号を設定します。

困ったときは(トラブルシューティング)

症状	考えられる原因	対策方法
ACD1に保存されていたシーン情報がすべて消えてしまった	ACD1のデータ保存中に電源が落とされた	再度、Amp Editorと同期してAmp Editorから設定情報を送信してください
	バックアップバッテリーが消耗した	「5.Utility」→「Battery」でバックアップバッテリーの残量を確認し、「OK」以外が表示された場合はヤマハ修理で相談センターにバックアップバッテリーの交換をご依頼ください
アラートメッセージが表示された	アンプとの接続異常など、接続に関するアラートイベントが発生した	アラートメッセージの意味および対策について詳しくは、Amp Editor取扱説明書をご参照ください
パネル操作が反映されない	ロックがかかっている	詳しくはACD1 リファレンスマニュアルの「5.Utility」をご参照ください
シーンを保存できるが、呼び出せない	Scene RecallがDisableになっている	「5.Utility」→「Scene Recall」でEnableに設定してください
LCDのバックライトが消灯している	LCD BacklightがAuto OFFに設定されている	常時点灯させたい場合は、「5.Utility」→「LCD Backlight」をONに設定してください

内蔵メモリーの初期化

ACD1 の内蔵メモリーを初期化できます。

【NOTE】 ・ 初期化を実行してもログ情報は保持されます。

⚠ 注意 ・ 内蔵メモリーを初期化すると、それまでメモリー内に保存されていた内容 (アンプごとのシーン、ACD1 の設定) が失われます。

以下の操作は慎重に行なってください。

1. ACD1 の電源をオフにします。
2. [BACK] ボタンを押しながら電源をオンにします。
3. [▲INC/YES] ボタンを押して、初期化します。

初期化が完了すると、ACD1 は自動的に再起動します。

⚠ 注意 ・ 初期化中は、ディスプレイに「Do not turn off!」というメッセージが表示されます。メッセージの表示中は、絶対にアンプの電源は切らないでください。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせの必要がございましたら、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

● 保証書

本書に保証書が掲載されています。購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理にお伺いするのは、製品ごとに定められています。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

ご要望により有料にて修理させていただきます。下記の部品などについては、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

有寿命部品の例
フェーダー、ボリューム、スイッチ、接続端子など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

● 修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などをご確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 損害に対する責任

この製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

● お客様ご相談窓口

アフターサービス以外で、製品に関するご質問・ご相談は、お客様ご相談窓口までお問い合わせください。

お客様ご相談窓口: ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

● ナビダイヤル



0570-050-808

※全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

PHS、IP電話は 03-5652-3618

電話受付＝祝祭日を除く月～金/11:00～19:00

● FAX 03-5652-3634

● オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/support/>

◆ 営業窓口

(株)ヤマハミュージックジャパン PA営業部

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12 KDX箱崎ビル1F

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

● ナビダイヤル

(全国共通番号)



0570-012-808

※全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830

● 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00 (祝日およびセンター指定休日を除く)

● FAX 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸) 06-6465-0367

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラクタートミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024

大阪市此花区島屋6丁目2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F

FAX 06-6465-0374

* 名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

持込修理

保証書

品 名	AMPLIFIER CONTROL DEVICE		
品 番	ACD1		
※シリアル番号			
保 証 期 間	本 体	お買上げの日から1ケ年間	
※お買上げ日	年 月 日		
お 客 様	-		
	ご住所		
	お名前		
	電 話 ()		

ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入ください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行う事をお約束するものです。
お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上お買上げの販売店に修理をご依頼ください。
ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)をあわせてご提示ください。

(詳細は下項をご覧ください)

※ 販 売 店	店 名	
	所在地	
	電 話	

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部
〒103-0015
東京都中央区日本橋箱崎町41番 12号 KDX箱崎ビル1F
TEL. 03-5652-3850

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態(取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態)で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
- ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。

- この保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

- * この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
- * ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。
- ※ その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

メモ

メモ



ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト :
<http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/>

ヤマハマニュアルライブラリー :
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

C.S.G., PA Development Division
© 2009-2013 Yamaha Corporation

310POCP-01C0
Printed in Japan

WN41270